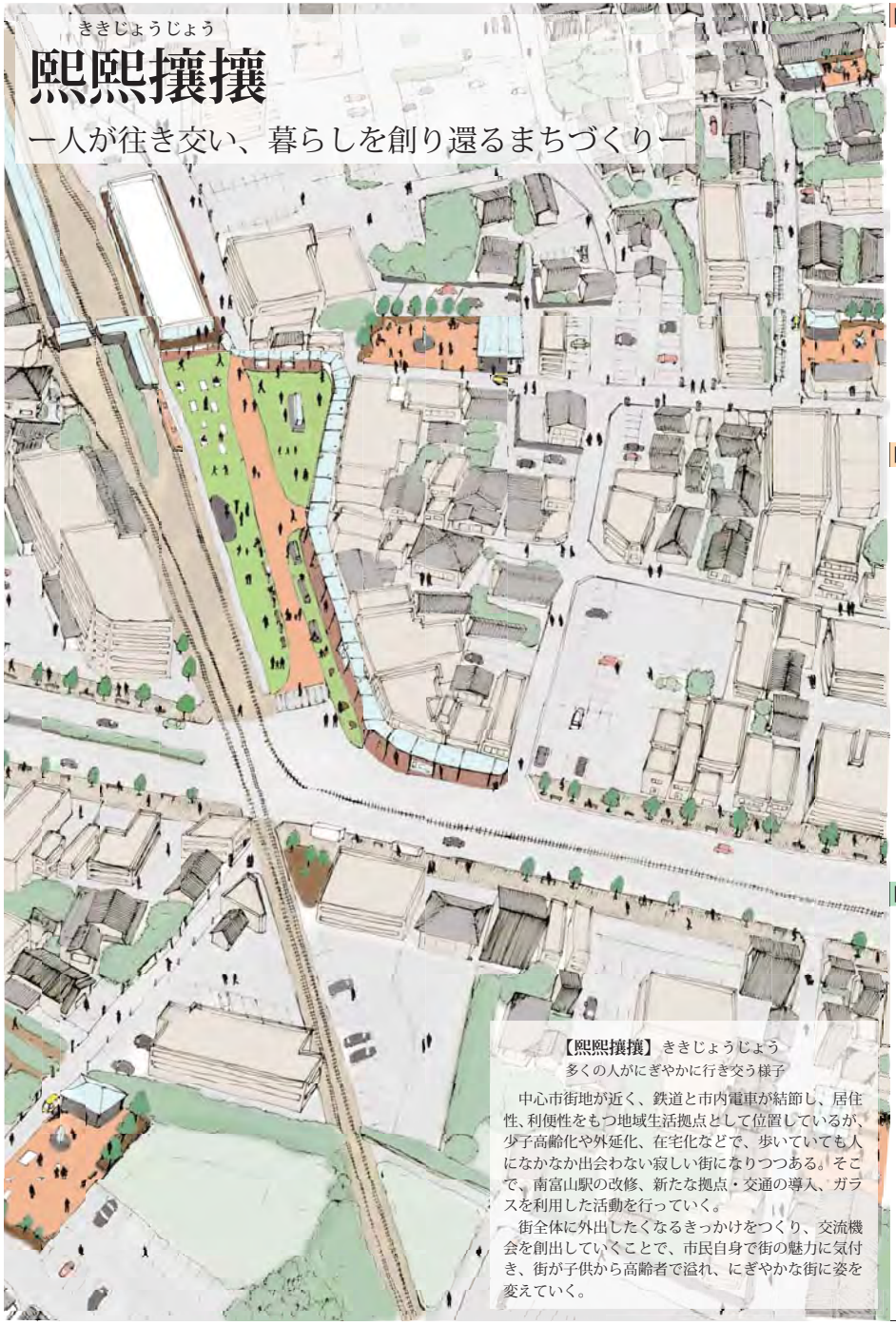
熙熙攘攘

きききょうじょう

ー人が往き交い、暮らしを創り還るまちづくりー



【熙熙攘攘】きききょうじょう
多くの人がにぎやかに行き交う様子

中心市街地が近く、鉄道と市内電車が結節し、居住性、利便性をもつ地域生活拠点として位置しているが、少子高齢化や外延化、在宅化などで、歩いていても人になかなか出会わない寂しい街になりつつある。そこで、南富山駅の改修、新たな拠点・交通の導入、ガラスを利用した活動を行っていく。

街全体に外出したくなるきっかけをつくり、交流機会を創出していくことで、市民自身で街の魅力に気付き、街が子供から高齢者で溢れ、にぎやかな街に姿を変えていく。

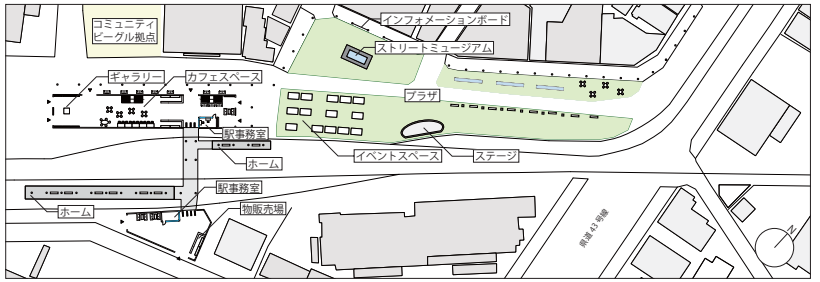
【A：駅前に再び活気を】

A-1：南富山駅改修計画
駅を改修し、商業施設やライブラリーの機能を持たし、南側へのアプローチを可能にする。よって、利用者も増え、駅全体がにぎやかになる。

A-2：ライブラリー
駅内にライブラリーを設置する。電車待ちの人や学生、高齢者などが休憩や学習ができ、他世代の人との交流が生まれる。

A-3：プラザ
駅前にプラザを設置することで、イベントや駅前の商店の活動の場の範囲が広がり、コミュニティの場となる。

	駅	商業施設	ライブラリー	プラザ	
運営	富山市鉄道	富山市鉄道テナント	市	市	民間
整備	富山市鉄道	富山市鉄道テナント	市	市	民間
所有	富山市鉄道	富山市鉄道	市	市	



【B：定住できるまちへー地域交流生活拠点・集住エリアの設立】

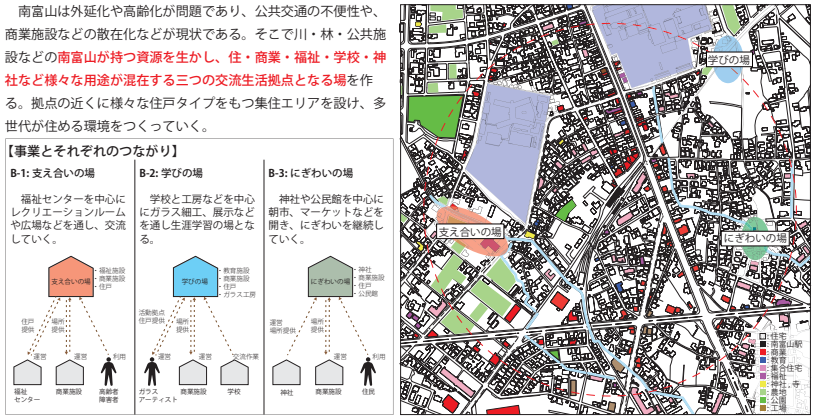
南富山は外延化や高齢化が問題であり、公共交通の不便性や、商業施設などの散在化などが現状である。そこで川・林・公共施設などの南富山が持つ資源を生かし、住・商業・福祉・学校・神社など様々な用途が混在する三つの交流生活拠点となる場を作る。拠点の近くに様々な住戸タイプをもつ集住エリアを設け、多世代が住める環境をつくっていく。

【事業とそれぞれのつながり】

B-1: 支え合いの場
福祉センターを中心にレクリエーションルームや広場などを通し、交流していく。

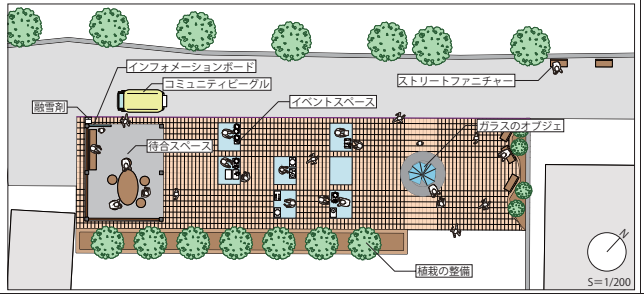
B-2: 学びの場
学校と工房などを中心にガラス細工、展示などを通し生涯学習の場となる。

B-3: にぎわいの場
神社や公民館を中心に朝市、マーケットなどを開き、にぎわいを継続していく。



【C：ポケットパークの設置】

一世帯の自動車保有率が高いこともあり、駐車場・空き地が数多く存在する。駐車場を集約し、新しくできるオープンスペースにポケットパークを点在させる。ポケットパークはコミュニティビーグルの停留所、ベンチやガラス作品の展示、朝市、マーケットなどを開くことができるイベントスペースとなり、生活の延長のような場所を作る。ポケットパークをつなぐ道は部分的に歩車分離を行うことやストリートファニチャーやストリートミュージアム、インフォメーションボードの特徴をもったプロムナードデザインのある道を計画する。



【D：ガラスの街とやま】

昭和 60 年から富山市は文化の創出・地場産業育成を目的に「ガラスの街とやま」の取り組みを始める。しかし、南富山駅周辺ではこの取り組みが見られない。そこで、この取り組みを富山市役所とガラスアーティストが共同で運営していく。ガラスアーティストの拠点、子供や高齢者の趣味の場としてつくることやガラスのリサイクル活動などで、ガラスの街とやまの認識・住民の外出促進を計る。

TOYAMA キラリ

ストリートミュージアム

ガラス細工体験

【リサイクルされるガラスの流れ】

【捨てる】
ガラスをリサイクルボックスに捨てにいく。

【回収する】
回収時にポイントカードにポイントをつける。

【つくる】
ポイントでガラス細工で使用する材料に還元できる。

【E：コミュニティビーグルー新交通の導入】

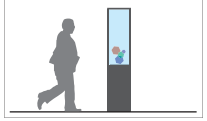
自動車依存や公共交通の減少、商業施設の散在化は高齢者など、車を自分で運転できない人たちにとって住みにくい街の原因となっている。そこで安全で自由性の高いコミュニティビーグルを導入し、外出しやすい環境をつくる。また、運営はシルバー人材センターの人が行う。

【コミュニティビーグル】
運転手含め、二人乗りのゴルフカートを使用。最高時速が 19 キロで、低床なので高齢者でも乗りやすい。騒音が少なく、排気ガスも環境に優しい。後部にある収納部分には利用者の荷物や冬には融雪剤を収納しておく。

【F：プロムナードデザイン】

駅前、国道沿い、細い道にプロムナードデザインを行う。現在、どの道にも居場所はなく、歩く場所でしかない。そこで、道をギャラリー化・情報発信の場・コミュニティの場とすることで、それぞれの道に個性を持った居場所をつくる。また、歩車分離を行い、子供・高齢者が安全で歩きやすい道になる。他にも、富山市では積雪も問題視されているので、住民が使用できる融雪剤の貯蔵庫を設置する。歩いていて、安全で楽しい道を目指す。

【ストリートミュージアム】
ガラスアーティストの作品を展示していく。街全体をギャラリー化していくことで住民へのアーティストの宣伝・ガラスの街とやまの認識につながる。



【インフォメーションボード】
イベント等の広告を掲示するインフォメーションボードを設置。雨、雪対策のために庇を取り付け、安全性を持たせる。

【ストリートファニチャー】
高齢化が進んでいる街であり、商店が分散して立地しているため、買い物の移動の途中に休憩などができる家具を設置する。